

【ご参考】 2021年3月期 決算短信 補足資料

1. 当期連結業績の概要

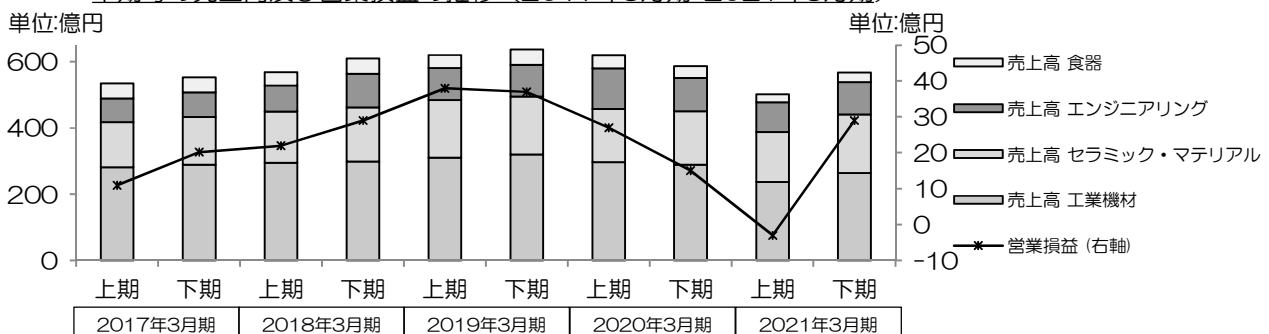
【業績】	
売上高	1,070億円（前期比 136億円減収）
	US\$2.81円の円高、THB 0.13円の円高により、売上高 5.7億円減少
営業利益	26億円（前期比 17億円減益） 経常利益 45億円（前期比 18億円減益）
親会社株主に帰属する当期純利益	28億円（前期比 6億円減益）
【連結の範囲】	
連結会社	23社（増減なし） 持分法適用会社 4社（増減なし）
【特別損益】	
特別利益	1.8億円：投資有価証券売却益 1.6億円、固定資産売却益 0.2億円
特別損失	5.7億円：減損損失 3.1億円、事業構造改善費用 1.5億円等
【期末配当金】	
期末配当	30円/株（年間 60円/株）（前期年間 100円/株）

(1) 業績推移

（単位：億円 四捨五入）

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	対前期比
		3月期	3月期	3月期	3月期	3月期	
		通期実績	通期実績	通期実績	通期実績	通期実績	
売上高	工業機材	570	594	632	586	501	△ 85
	セラミック・マテリアル	280	317	348	322	328	5
	エンジニアリング	146	180	193	223	187	△ 36
	食器	92	88	85	75	54	△ 21
		1,088	1,179	1,258	1,206	1,070	△ 136
営業利益	工業機材	10.3	17.4	23.3	2.6	△ 11.0	△ 13.6
	セラミック・マテリアル	18.8	26.5	36.9	22.2	31.0	8.8
	エンジニアリング	9.9	15.2	22.3	26.2	18.7	△ 7.5
	食器	△ 7.8	△ 8.2	△ 7.7	△ 8.9	△ 13.1	△ 4.3
		31.2	51.0	74.8	42.1	25.6	△ 16.5
(売上高営業利益率)		(2.9%)	(4.3%)	(5.9%)	(3.5%)	(2.4%)	-
経常利益		48.6	69.9	97.6	63.1	44.8	△ 18.3
特別利益		7.8	107.8	28.4	1.3	1.8	0.5
特別損失		3.8	15.8	2.8	14.7	5.7	△ 9.0
親会社株主に帰属する当期純利益		41.1	134.3	97.1	34.2	28.1	△ 6.1
1株当たり当期純利益		286.12円	935.57円	675.77円	237.22円	194.54円	-
1株当たり純資産		5,846.51円	6,941.38円	7,219.82円	6,986.33円	7,684.78円	-
US\$ 為替レート		109.4円	112.0円	110.4円	109.2円	106.4円	-

半期毎の売上高及び営業損益の推移（2017年3月期-2021年3月期）



(2) 設備投資及び減価償却費

(単位：億円 四捨五入)

	2020年3月期		2021年3月期	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
工業機材	29	21	16	22
セラミック・マテリアル	51	11	17	14
エンジニアリング	2	1	3	2
食器	2	3	5	3
管理部門	5	7	5	7
合計	90	44	46	48

(3) 有利子負債

(単位：億円 四捨五入)

	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	対前期比
有利子負債*	231	131	48	51	79	28
現金及び預金	113	185	141	126	123	△ 3
ネット有利子負債	119	△ 54	△ 93	△ 75	△ 44	31

* 有利子負債には、リース債務は含めておりません。

2. 2022年3月期の計画

(1) 重点施策

コロナ禍など事業環境の大きな変化に対応するため、これまでの基本戦略に最優先事項として「選択と集中の加速」を加え、引き続き取り組みます。

【工業機材】

- 開発・製造から販売までを通して分析し、商品群毎に採算性重視の利益体質を構築するとともに、自動車の電動化や次世代通信に関連した先端材料分野での新技術・新商品開発を推進して拡販を図ります。
- 中国、タイ、北米などの海外生産拠点の増強は、世界経済の動向を注視し、優先順位を決めて実施し、海外市場の開拓を進めます。
- グループ会社を含めた国内販売拠点の再整備を行い、効率的な販売・物流体制を構築します。

【セラミック・マテリアル】

- 電子ペースト事業では、高速移動体通信など電子部品用の生産能力増強と商品開発を推進し、国内外の重要顧客でのシェア拡大を図るとともに、開発テーマの選択と集中により開発スピードを高めます。
- セラミックス事業では、石膏とセラミックコアの海外市場の開拓、触媒担体の次世代商品の開発を推進し、事業の選択と集中を進めます。
- 電子部材は、積層セラミックコンデンサ用材料の生産能力増強によるシェア拡大と新商品開発に取り組みます。

【エンジニアリング】

- 次世代電池（リチウムイオン電池、全固体電池、燃料電池）などのエネルギー分野、電動化が進む自動車分野、エレクトロニクス分野において、新商品開発、既存商品の高付加価値化、新用途開拓による拡販を進め、事業の拡大を図ります。
- カーボン系新素材や医薬・化粧品など新しい分野への参入と新用途展開に取り組みます。

【食器】

- 市場の選択と集中を進め、大幅な収益改善を図ります。国内では、流通販路や直営店の再整備、ホテル・レストラン向け販売の強化、ネット販売の強化を推進します。海外では、新興国市場の販売体制の強化、米国市場の収支改善を進めます。また、市場に合わせた開発・製造体制を再構築します。

【設備投資金額】

設備投資 60億円 減価償却費 50億円

(2) 業績予想

(単位：億円 四捨五入)

	2021年 3月期	2022年3月期 業績予想				
		通期実績	上期予想	下期予想	通期予想	通期増減*
売上高	工業機材	501	270	270	540	39
	セラミック・マテリアル	328	180	185	365	37
	エンジニアリング	187	105	130	235	48
	食器	54	25	35	60	6
		1,070	580	620	1,200	130
営業利益	工業機材	△ 11.0	8	8	16	27
	セラミック・マテリアル	31.0	18	20	38	7
	エンジニアリング	18.7	6	15	21	2
	食器	△ 13.1	△ 7	△ 3	△ 10	3
		25.6	25	40	65	39
経常利益		44.8	35	50	85	40
親会社株主に帰属する当期純利益		28.1	27	38	65	37

(想定為替レート US\$=105円)

* 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、増減額は参考情報として単純比較値を記載しております。